

.....

うきたむ考古通信

.....

2021年9月号

■発行者	うきたむ考古の会
事務局	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内
	〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町安久津2117
	電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665

館事業報告

👤考古学への関心の裾野を広げる事業

●館長講座 「小国町の考古学」を開催

7月の日曜日に2回に分けて解説・説明しました。

第1回(7月4日(日)) 13:30~15:30

・旧石器時代の小国町

第2回(7月11日(日)) 13:30~15:30

・縄文時代の小国町

受講者は1回目が11名、2回目が14名と少なかったのですが、各回とも、熱心に受講していただきました。当日の配布資料(pdf)は当館ホームページからダウンロードできますので、御覧になっていただきたいと思います。また、講座の様子をビデオ撮影しました。当館ホームページからアクセスできますので、参加されなかった方で、関心のある方はぜひ御覧ください。

♥「赤ちゃん手形をつくろう」を8月に2回目を開催。

●本館の恒例行事の「赤ちゃんの手形をつくろう」の2回目を8月7(土)~9(月)日に開催しました。今回も完全予約制とし、付添は子ども一人に二人まで、感染拡大防止措置がとられている地域からの参加を制限するなど、5月と同様の感染防止策をとりました。

この結果、参加総人数は527名、採取手形・足形は151個で5月の約半数でした。

展覧会のご案内

👁️2021「kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展」

令和3年8月28日(土)から本館を会場として開催されています。

昨年立ち上げましたWEBサイト「全国こども考古学教室」におきまして、昨年度にスタートしたシリーズ企画「kid's 考古学新聞コンクール」に第1回は全88点の応募作品が

寄せられました。その結果発表については当該WEBサイトでも紹介しましたが、子どもたちの素晴らしい作品をより多くの方々にご覧いただきたいと考え、この度、全国の博物館・資料館での巡回展を企画しました。子どもたちの豊かな発想力や表現力に驚かされます。WEBサイト「全国こども考古学教室」の役割は、子どもたちに、考古学を学んで、親しんでもらうこと、地元への愛着を深めるきっかけとなること、そして、遺跡や博物館等に出かけてもらうことを目指しています。

今回の巡回展では「第1回 kid's 考古学新聞」の入賞作品 30 点を展示しています。このコンクールには遊佐町立吹浦小学校 6 年生 (応募当時) の石垣風犀さんが応募した「小山崎新聞」が入賞し「遺跡愛ハンパないで賞」に輝きました。

小学生、ご家族、そして、一般の方にも見応えのある作品です。会期は 9 月 20 日 (月・祝 臨時開館日) までとなっています。多くの方々に御覧いただきたいと思います。

展覧会の予告

👁️ 第 29 回企画展「山形県の近世城郭と出土品」

9 月 11 日 (土) ~ 12 月 5 日 (日)

第 29 回企画展は「山形県の近世城郭と出土品」と題し、県内の近世城郭に焦点を当て、城下絵図とともに近世初頭までの出土品を展示することにいたしました。

第一章 館山城

古くから伊達氏に関わる山城として知られていましたが、平成 22~26 年度にかけての発掘調査によって、伊達・上杉両氏に関わった城であることが分かってきました。今回はこの館山城跡の調査で報告された出土遺物と平成 15・23・24 年度に調査された館山東館、平成 15・23・25 年度に調査された館山北館から出土した遺物を展示すると共に、絵図面、調査時の写真を展示します。

館山城では全体的に出土品は少ないのですが、曲輪 I、II、枳形堀切から出土した主として 16 世紀代の陶磁器など 16 点を展示します。

館山東館は 16 世紀から 17 世紀初頭の根小屋と考えられており、伊達期を中心とした陶磁器類、内耳土鍋、かわらけ、瓦質土器、砥石、石臼、鎧の小札、短刀などの武具類、釘、楔、鎌の道具類合わせて 30 点を展示します。

館山北館も館山城跡と同時期の根小屋と考えられています。北館は伊達期の遺物が中心となりますが、僅かに上杉期の磁器も出土しています。内耳土鍋、播鉢、瓦質の香炉、かわらけ、陶磁器類、土鈴、古銭など 32 点を展示します。

第二章 米沢城

長井時広によって築城されたと伝えられる米沢城は、伊達晴宗が本拠とした天文 17 年 (1548) 以降、本格的な城下町が形成されたようです。天正 19 年 (1591) 伊達政宗が岩出山に移配されると、その後の 8 年間は会津を拠点とする蒲生氏の領地となり、上杉氏が越後から会津に移配されると上杉領となり、直江兼続の居城となります。関が原の戦い以降米沢城は上杉氏の居城となります。

これまで、本丸には調査のメスが入っていませんが、二の丸と二の丸堀が米沢市教委、(財)山形県埋蔵文化財センターによって調査されています。また、三の丸跡は道路の拡幅部分など数回にわたって小規模な調査が行われています。

二の丸が整備されたのは景勝の入部以降とされていますが、発掘調査では伊達期の出土品も少なくありませんが、ここに、どのような施設があったのかはよく分かっていません。今回の展示ではこの、伊達期の内耳土鍋、搦鉢、手焙、様々なかわらけ、輸入陶磁器、瀬戸美濃の小皿 17 点を展示します。

上杉期に二の丸堀が整備されますが、米沢市教委の調査地の絵図によると二の丸は寺となっていました。この調査で出土したかわらけ、16・17 世紀の輸入磁器、肥前磁器、唐津の陶器、福島県の岸窯、大堀相馬窯、仏具の飾り金具、小柄など 29 点を展示します。

上杉氏入部後に障子堀として整備された二の丸堀からは上杉期の仏教関係も含め、かわらけ、17 世紀前葉から 18 世紀の肥前磁器、岸窯の陶器、中国産の古銭、小柄、キセル、脇差等 25 点を展示します。

三の丸は慶長 13・14 年(1608・1609) には造営されましたが、それ以前の伊達期の内耳土鍋、搦鉢、志野の輪花皿、埴塙や戸車と考えられる石製品、瓦質土器、そして、下駄、合わせて 8 点を、上杉期のものとして 17 世紀のかわらけ、岸窯、織部、肥前系の陶器、肥前の磁器、漆器など 18 点を展示します。

第三章 山形城

山形城は斯波兼頼によって築城され最上氏となってからも、代々山形城を居城としました。天正～元禄年間には最上義光による城郭の大規模な拡張と町割が行われ、現在確認される三の丸までの広大な城郭が形成されます。城の面積は全国で 5 番、奥羽では最大規模の城でした。義光死後、元和 8 年(1622) に家中の内紛で最上氏は改易になり、その後の山形城は城主が鳥居氏から保科氏を経て、頻りに城主が交代しました。

山形城ではこれまでに本丸・二の丸・三の丸でそれぞれ数多くの発掘調査が行われ、県内で最も調査回数の多い近世城館です。

今回は近世初頭の主に最上期を中心に、本丸・二の丸・三の丸の出土品を展示します。本丸はこれまで本丸御殿跡をはじめ、一文字門、東・西・南の土塁や堀などが調査され、瓦などを含め、当時をうかがわせる様々な遺物が出土しています。本丸御殿の調査では、中央堀跡から 16 世紀末から 17 世紀初頭の最上期の鯨瓦、鬼瓦、鳥衾、軒平、軒丸瓦が大量に出土し、金箔瓦も少なくありません。本丸の東堀、南堀からは松平氏の寛文年間のへら書きによる紀年銘のある瓦も出土しています。これらの瓦を 16 点展示します。

この他、本丸御殿中央堀跡や本丸を囲む堀跡などから出土した 16 世紀後半から 17 世紀初頭の中国産磁器や唐津や瀬戸美濃、志野等の国産陶器 11 点を展示します。

霞城公園内の様々な地点で広範囲に発掘調査が行われ、二の丸を囲む土塁や坤櫓・櫓・肴町向櫓・巽櫓など、当時の姿を残す遺構が確認されています。これらの調査で出土した慶長一分金 4 点、鯨瓦、鬼瓦、17 世紀後半の三つ巴の軒丸瓦と三葉紋の軒平瓦など瓦 7 点、中国産や織部を含む陶磁器 7 点を展示します。

三の丸は山形市教委や(財)山形県埋蔵文化財センターによる数多くの緊急調査で多くの出土品があります。今回は、広範囲の調査となった山形駅の西の双葉町遺跡、城南一丁目遺跡と城北遺跡から出土した中国産磁器 5 点、瀬戸美濃・古瀬戸、志野、織部・肥前陶器・磁器など 16 世紀後半から 17 世紀前葉の国産陶磁器等 32 点を展示します。さらに、鍛冶に関係するフイゴの羽口や鋳型、埴塙、石鉢、焼き物を打ち欠いて円盤状に仕上げたもの合わせて 18 点を展示します。

さらに、二の丸と本丸を繋ぐ本丸大手橋の調査で出土した橋脚の部材や掛矢や金錠、ノミなどの道具や部材を繋ぐ土を繋ぐ釘や鋸、手違など 22 点も展示します。

また、山形城跡の各調査区からは武具が出土しています。このうち、火縄銃の金具、鉛玉、玉を作るための鋳型、槍、鉄鏃、捕り物道具の袖搦の先端金具、刀剣・刀装具刀の鞘に装着される小刀である小柄、柄と刀身を固定するための目貫と呼ばれる柄飾鏝がずれないように固定する金具である切羽、刀の鏝、長さの短い短刀とみられる刀身も展示します。

第四章 新庄城

新庄城は元、在地有力者の居館だったと考えられ、戸沢氏入部以前は最上家家臣日野将監の居館となっていました。「城」としての新庄城は、寛永 2 年戸沢政盛によって築城されたものです。築城当時は本丸に三重の天守閣を備えた城だったと伝えられます。

今回の展示では、発掘調査や浚渫工事、などで大量に見つかった鯨瓦、軒丸瓦、軒平瓦 14 点を展示します。

第五章 鶴ヶ岡城

鶴ヶ岡城は中世には大宝寺城と称され、武藤氏の築城と伝えられる城でした。武藤氏は大山の尾浦城に移りますが、東禅寺氏に滅ぼされます。その後、十五里ヶ原の戦いで勝利した本庄氏をへて主君の上杉氏の支配となり、関ヶ原後は最上領となり、最上氏改易に伴い酒井氏が入部して、その居城となりました。最上領の時期に鶴ヶ岡城と改称されますが、今回の展示では、武藤氏時代と考えられる中世から、めまぐるしく情勢の変わる江戸初期までの遺物を中心に展示いたします。

武藤氏の安定した治世であった時期には 14 世紀末から 15 世紀、そして、最上の治世止まる 16 世紀初頭の中国産時期が比較的多くみられます。今回は景德鎮窯や漳州窯の青花や同時期の青磁、瀬戸美濃、肥前系の陶器等 23 点を展示します。

酒井氏入部以降の 17 世紀中頃から後半のものとして肥前系の磁器、スタンプで文様が施された風炉や香炉などの瓦器、年代は不明ですが酒井氏の家紋入りの瓦、漆器、糸巻き・櫛・祭祀用などの木製品等 21 点を展示します。

第六章 亀ヶ崎城

元は東禅寺城と呼ばれ、遊佐太郎繁元によって現在の場所に築城されたと伝えられる城です。後に武藤氏の城となり、鶴ヶ岡城同様上杉領期、最上領期を経て酒井氏の城となります。今回は大量に発掘されている中世の遺物を中心に、関が原合戦前後の緊迫した情勢がうかがわれる木簡など多彩な遺物を展示します。

16 世紀代の中国産の白磁や青磁・青花・五彩皿・天目、国産の陶器の瀬戸・織部・志野・瀬戸美濃・肥前などの陶磁器類 42 点、武藤家の家紋の入った椀などの漆器 5 点、お茶に関連する木簡、天目茶碗、天目台、茶入、茶器の蓋(漆器)等を 6 点、槍・短刀・刀子・火縄などの武具 6 点、上杉・最上の戦いに使われたと考えられる武具に付けられた木簡が 4 点、同じ場所から出土した瀬戸美濃の折縁皿 1 点、城内で使われた物品を示す様々な木簡 6 点、網の錘や、ヤスなどの漁具 3 点と、食料となった貝類 2 点、マダイ・ブリ・イルカなどの漁骨 6 点、ニワトリ・ガン・カモ・ニホンジカ・イヌ、ウマ等の鳥獣骨 10 点を展示します。

発掘調査で出土した、県内 6ヶ所の近世城郭の様々な資料を展示するのは初めての試みです。ぜひ足を御運び下さい。

第 23 期考古学セミナー

1. 趣 旨

企画展に関連したテーマでセミナーを行うことにより、企画展の内容への理解や展示見学への意欲を高める。

2. 主 催 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
- 共 催 うきたむ風土記の丘考古資料館自主事業委員会
3. 期 日 令和3年9月26日・10月4日・10月17日（日）
4. 会 場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 研修室
5. テ ー マ 「発掘調査でわかった山形県内の近世城郭と出土遺物」
6. 開講時間 各日とも 13:30～16:00
7. 募集人員 20名(机一つに一人)
8. 受講費 全3回受講される方は1,500円、1回参加の方は600円

第1回(9月26日(日))

- ・米沢城跡の発掘調査と出土遺物

米沢市教育委員会 菊地 政信 氏

- ・舘山城跡の発掘調査と出土遺物

米沢市教育委員会 佐藤 公保 氏

第2回(10月3日(日))

- ・山形城跡本丸跡・二ノ丸跡の発掘調査と出土遺物

山形市役所 齋藤 仁 氏

- ・山形城跡三の丸跡(双葉町遺跡他)の発掘調査と出土遺物

山形市役所 齋藤 仁 氏

第3回(10月17日(日))

- ・鶴ヶ城跡の発掘調査と出土遺物

(公財)山形県埋蔵文化財センター 菅原 哲文 氏

- ・亀ヶ崎城跡の発掘調査と出土遺物

(公財)千葉県教育振興財団 高桑 登 氏

※完全予約制となります。8月28日から受講申し込みをお受けしています。

既に、東京や県外の方から申し込みがありますが、開催日に新型コロナウイルス感染防止対策で「緊急事態宣言」が発出されている地域にお住まいの方は受講できません。申し込みされた方には、その旨お伝えしています。

企画展講演会

11月14日(日)

演 題 「近世城郭と石垣」

東北芸術工科大学 北野 博司 氏

※こちらにも完全予約制となります。10月から参加申し込みをお受けする予定です。

♥秋の遺跡めぐり

10月10日(土)に福島県南相馬市の遺跡と展示施設をめぐる予定で、現地案内の玉川一郎氏と準備を進めており、近日中に内容が決まる予定です。南相馬市には史跡も多く1回で廻ることは難しいとのことで、2回に分け、来年度も継続となる予定です。なお、新型コロナウイルス感染防止の観点から、参加者はワクチンを摂取された方に限ることとし、山形・福島両県で感染拡大が続くようであれば、春に続き、中止ということもありえます。ご理解を賜りたいと思います。開催要項ができ次第、お送りします。

今後の体験事業の予定

● 「勾玉・弓矢・石器をつくろう」

11月3日(祝) 完全予約制となります。

● 「ガラス玉をつくろう」

11月27日(土)に開催します。完全予約制となります。

● 「からむしで布をつくろう」(あんぎんをつくろう)

12月4日(土)に開催します。完全予約制となります。

● 「古代風プレスレットをつくろう」

12月4日(土)に開催します。完全予約制となります。


● 「大人の自由研究2ー塩引きをつくろうー」


初めて開催する事業です。遊佐町に遡上したサケのオスを使い、新巻鮭を作ります。初日はヌメリを取り、内臓、エラを除去し、を塗り込む作業を行います。2日目は塩抜きをしたサケを洗い、干すまでの作業を行います。なお、初日の作業後、持ち帰ることもできますので、塩抜きから後の工程となる2日目は自由参加とします。


12月5日(日)・11日(土) 募集10名(新規事業) 完全予約制となります。


東北情報館


感染症拡大防止のため、他地域との往来は充分ご注意ください
ますようお願いいたします。

 第29回企画展 『山形県の近世城郭と出土品』
入館料 一般／200円 大学生／100円 高校生以下／無料
9月11日～12月5日 うきたむ風土記の丘考古資料館 TEL: 0238-52-2585

 令和3年度企画展 『高畠鉄道設立100年展 ～その始まりと終わり～』
入館料 一般／100円 学生／50円 高校生以下／無料
8月1日～11月30日 高畠町郷土資料館 TEL: 0238-52-4523

 開館20周年記念特別展 『狩野派 永徳とその周辺』
入館料 一般／800円 高・大生／500円 小中生／300円
8月7日～10月10日 伝国の杜 米沢市上杉博物館 TEL: 0238-26-8001

 プライム企画展 『紅と藍 —くらしを彩る—』
入館料 一般／300円 大学生／150円 高校生以下／無料
9月25日～12月12日 山形県立博物館 TEL: 023-645-1111

 特別展 『あおもりの縄文世界』
入館料 一般／800円 高大生／400円 中学生以下／無料
7月17日～11月28日 青森県三内丸山遺跡センター TEL: 017-766-8282

 秋田県誕生150年記念特別展 『佐竹氏遺宝展 —守り継がれた大名家資料—』
入館料 一般／800円 高大生／600円
9月18日～11月14日 秋田県立博物館 TEL: 018-873-4121

